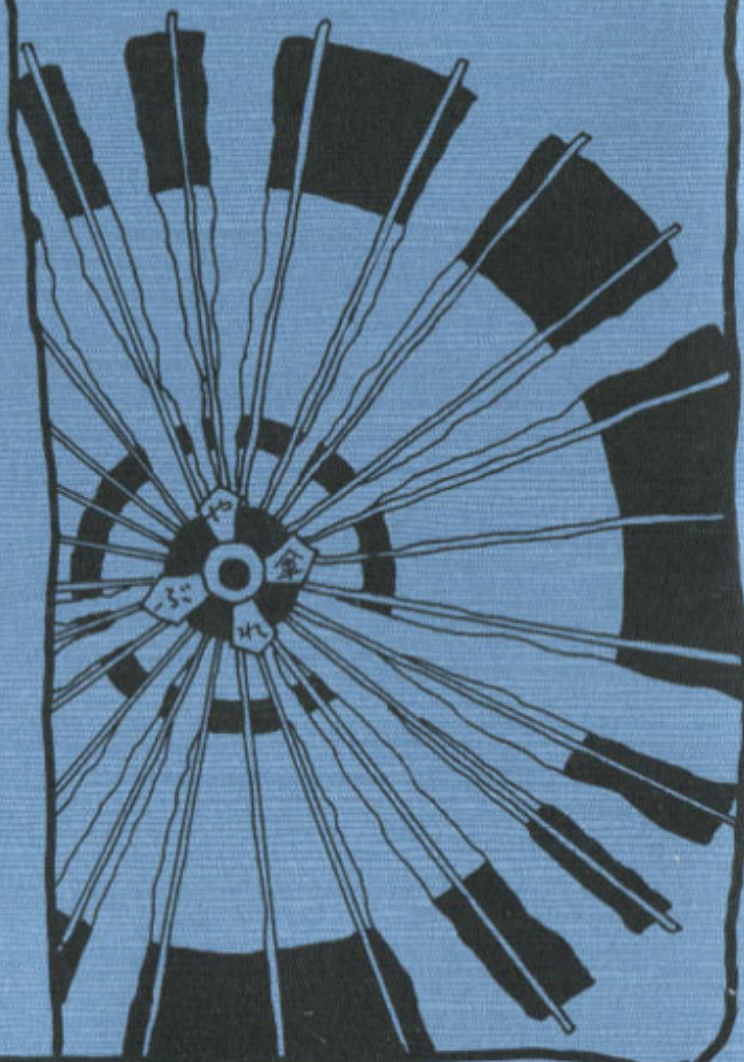


やぶれ傘



八十五号

二〇一五年八月

釣り人と二言三言朝ぐもり	根橋宏次
かうもりを提げて青田を散策す	大島英昭
南口出て炎天の丸の内	廣瀬雅男
袍より取り出したる夏帽子	きくちきみえ
豆皿にどこそこの塩冷し酒	青谷小枝
ダリア咲く畑の向うの土埃	藤井美晴
カフェのドア開いて雨音半夏生	丑久保勲
夫婦して子ねずみを追ふ夏座敷	白石正躬
青柿や子供自転車並ぶ塾	瀬島酒望
無人駅どうぞとありて夏みかん	菊池洋子
看板は居酒屋のまま蔦茂る	小山陽子
消防署にホース干しある雲の峰	秋山信行
父の日やマッサンの酒贈らるる	久世孝雄
夏至の雲見てゐて飽きるゝとのなく	渡邊孝彦
しりとりいきりにをはる蚊遣香	安藤久美子

抄 集 句 傘 れ ぶ や

大 崎 紀 夫 選

青葉風算盤珠をはじく音	天野美登里
麦酒飲む夫は傘寿をすぎにけり	國保八江
宿坊の朝の勤行青葉木菟	有賀昌子
新盆を迎へる友を数へけり	松村光典
単衣着て雨の甘酒横丁を	貫井照子
ハーケンの音こだまする夏の山	野口希代志
梅雨晴れや湿布の匂ふ膝小僧	萩原溪人
岩清水跨ぎて通る山の道	山本久枝
走馬燈止まりて昔消えにけり	安斉正蔵
ゆるやかな砥石のへこみ半夏生	大野芳久
噴井戸に放てば廻る笹小舟	奥田温子
梅洗ふ午後は大雨注意報	上林富子
一座二座と山を数へてほととぎす	菊地葉子
谷中へと灼くる夕焼けだんだんを	齋藤朋子
樺林の木屑の道の涼しかり	佐藤稲子

青
柿

瀬島洒望

田植糸機は田に止めしまま昼餉時
五月晴れ骨董市に十手買ふ
汐だまりより蚊の生るる城ヶ島
廃道に蚩袋の咲くところ
蚩狩り帰りの靴を洗ひけり
青柿や子供月転車並ぶ塾
夏草に揚げ舟ひそみゐるやうに
昼顔や引き込み線に無蓋貨車
バス降りて浜屋顔の咲く岬
蛸壺の縄ほどけゐる浜万年青

夏みかん

菊池洋子

天道虫たたみきれざる翅のまま
木の間より一気に空へ夏の蝶
曲がり胡瓜どさつと盛りて店先に
フルーツパーラー木箱に光るさくらんぼ
巫の箒やすめて草を引く
道問うて日傘の影をもらひけり
木下闇奥の院への磯二百
図書館の曲り角より白日傘
無人駅どうぞとありて夏みかん
そのままに乾き切つたる蛇の衣

蚯
蚓

小山陽子

ノートただ広げて梅雨の喫茶店
看板は居酒屋のまま蔦茂る
梅雨曇る朝にちいんとトースター
真直ぐに干からびてゐる蚯蚓かな
寝る猫の腹だけ動く夏の昼
西日射す宇治金時のサンプルに
白南風や鼻歌歌ふ口閉ぢる
蟻やたら急ぎて風の強き日に
夏の夜犬ふいに鳴く坂の上
熱帯夜舌の所在の気になりて

雲の峰

秋山信行

河骨や御堂手前に太鼓橋
濡れ魚籠を小枝に吊るす月見草
新じやがの粒を揃へる日暮かな
雨気きたる庭の低きを黒揚羽
消防署にホース干しある雲の峰
なかなかズックに抜けぬ素足かな
辣蕪漬け妻の一日の終りけり
ぼつぽつと雨くる畑や茄子の花
黄菅さくホームを列車通り過ぐ
向日葵の空を鳶の滑るかに

夏木立

久世孝雄

往き来する舟を横目にどぢやう鍋
通夜歸り清めと称し冷し酒
麦秋の中の県道ひた走る
父の日やマツサンの酒贈らるる
ひとところ広く開けり夏木立
白南風や濡れしタオルを首に巻き
鍬うてばわんさと蟻のわきいでる
葉の蔭にへちまのやうな胡瓜かな
てんと虫葉の裏表めぐりけり
木の肌に爪の食ひ込む蟬の殻

蜘蛛

渡邊孝彦

紫陽花や車の屋根を雀発ち
園内に竹の門花菖蒲
朝風は駅舎をめぐる夏つばめ
軒先に玉葱を干す麓村
店先で雨宿りするさくらんぼ
夏至の雲見てゐて飽きることのなく
青蔦の土手より鉄路までのびて
脱衣所の壁を蜘蛛這ふ夜更かな
濁流のこゑ聞き土手に月見草
片陰で朝の井戸端会議かな

浮いてこい

安藤久美子

入梅や飛び出すパンの狐色
しりとりのできりんにはる蚊遣香
夏至の日や庭の葉屑の大袋
劍玉の世一界一周梅雨の蝶
二天門潜る四万六千日
予約せし店より鰻焼くにほひ
虚貝集むる習ひヨットゆく
配られし団扇を使ひ帰途につく
木下闇四阿まではもう少し
東京の片隅に住み浮いてこい

算盤珠

天野美登里

庭石に笊を干しおく花擬宝珠
縁欠けの播鉢に紫蘇揉んでをり
ひまはりの花に山かげ移りけり
菜園の隅の胡瓜のよく長けて
青葉風算盤珠をはじく音
陽はとうにかたむき夏の紙漉女
軒の雨片白草を濡らしけり
「川の字」といふ安宿に根無草
川底の仕掛けを除ける箱眼鏡
引き潮の砂に裸足を沈めけり

茅の輪

國保八江

岩燕の乱舞の空となりけり
雨止みて赤のまぶしき花ざくろ
蕎麦の花丸太の椅子に蕎麦を待つ
麦酒飲む夫は傘寿をすぎにけり
梅雨明の待たる夜の月の色
次々と茅の輪をくぐる車椅子
青田風ほがひの酒を廻し飲む
手に取りて黄楊櫛選ぶ額の花
糠雨の日暮れに白し花とべら
自転車の籠にとりたて茄子胡瓜

宿坊

有賀昌子

宿坊の朝の勤行青葉木菟
石楠花や日時計の指すお昼時
夕刊の届くころほひ水を打つ
風炉茶会躡り口より膝頭
白日傘賓頭廬の腰擦りけり
銀行のロビーの隅に浮いて来い
デルフト焼きの壺へ蕊なき百合の花
鉛筆の四角六角雲デルフト焼き＝オランダの陶器の峰
品川に育ち品川祭いま
庭に生るトマト五六個色づいて

金 亀 子

松村光典

満開のさつきに沿ってバス走る
武者人形見つめる青き目の剣士
水無月やわらび取りする八ヶ岳
片陰を選んで歩く猫のをり
落ちゼミを拾へば手足動きけり
幹はしる新しいカビ古い黴
白櫨の葉裏の先北夏の空
新盆を迎へる友を数へけり
こだまするヒールの音の暑さかな
金亀子日暮れの道にころげ居り

◇ 9月・10月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
9月	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	2日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
10月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	18日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉文学館	丑久保 勲
	24日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

10月18日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR横須賀線・鎌倉駅江ノ電側改札口。吟行地は鎌倉文学館と由比ヶ浜。句会場は鎌倉生涯学習センター(鎌倉駅東口の若宮大路)。

◎連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保 勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ